

(2) 適性診断業務

(中期目標)

診断内容の高度化、受診者・事業者利便の向上等を図るため、診断機器の研究開発・導入を行うこと。

(中期計画)

効果を勘案しつつ、自動視野測定機の導入、アイカメラ・シミュレーターの開発・試行導入など機器の充実を行い、認知分野も含めた診断内容の高度化を図る。さらに貸出し用自動診断機器の開発を行い、全国に配備し、受診者・事業者の利便性を向上させる。

中期目標期間における取組み及び次期中期目標期間における見通し

1) 中期目標期間における取組み

診断内容の高度化を図るため、自動視野測定器を42台導入

アイカメラ・シミュレーターを開発・改良し、東京主管支所に試行導入

受診者・事業者の利便性の向上を図るため、貸出し用自動診断機器を最終年度(18年度)までに201台導入

(1) 新自動視野測定器

15年度・・・東京主管支所管内において効果の検証を行い、全主管支所(沖縄支所を含む)に導入

16年度・・・利用希望者数の多い支所を優先に、改良型を10台導入

17年度・・・利用希望者数の多い支所を優先に、改良型を10台導入

18年度・・・利用希望者数の多い支所を優先に、改良型を12台導入

(2) 貸出し用自動診断機器

15年度・・・東京主管支所管内の乗合バス事業者に機器を貸出し、モニター受診してもらい、受診者に対するアンケート調査を行ったところ、利便性が確認されたことから、各支所1台計50台を導入

16年度・・・改良型を50台導入、貸出診断機器による診断実績：4,920人

(3) アイカメラ・シミュレーター

15年度・・・アイカメラ・シミュレーターの効果の検証を行うため、試作機の開発及びデータ収集の実験を実施

16年度・・・前年度に引き続き、アイカメラ・シミュレーターの効果の検証を行うため、バス運転者の目の動き等のデータ収集、解析ソフトの開発及び実験を実施
アイカメラ・シミュレーターによる収集データの解析を実施

17年度・・・18年度試行導入にむけ、診断結果判定基準案を作成

「アイカメラ・シミュレーター検討委員会」を開催し、運用方法、診断データの

提供方法等を検討するとともに、実証実験を行い同機器の活用効果等の検証

18年度・・・昨年度の「アイカメラ・シミュレーター検討委員会」の意見を受けて、測定までの準備時間を短縮し、運行管理者が測定結果を活用しやすいように、受診者の目の動きの記録を無事故運転者の記録とともに、一枚のDVDに記録し、提供できるよう改良を加えた。
診断結果コメント案を作成した後に、2月に東京主管支所に試行導入し、利用者等の評価を行った。

2) 次期中期目標期間における見通し

受講者・事業者のニーズを踏まえ、指導講習の教材の充実を行うなど効果的な講習を実施及び診断機器の改良・導入等により、事業者の安全対策の充実・改善を図る。

< 各年度の取組み等 >

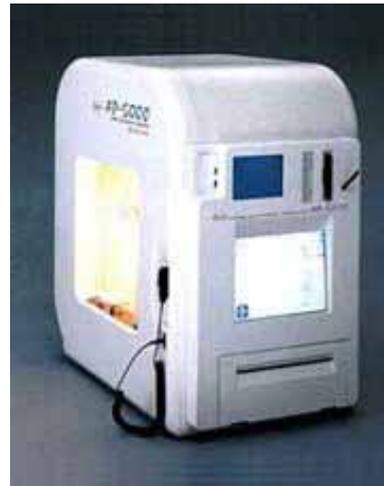
(1) 新自動視野測定器

15年度・・・試行導入による効果の検証

A) 旧手動視野測定器



B) 新自動視野測定器 (New automatic visual field meter)



【試行導入による効果の検証】

(検証のポイント)

1. 旧視野測定器で判明しない視野狭窄が、新視野測定器により判明した受診者数
2. 新視野測定器の受講者全員の要測定時間による実施の可否

(検証結果)

1. 適齢診断(65才以上の運転者)受診者106人に対して、新旧測定器による比較検証を実施したところ旧視野測定器で判明されなかった視野狭窄が新視野測定器では14名(全測定者の1割強)判明した。

全測定者数	新視野測定器の測定範囲での視野狭窄者数	旧視野測定器の測定範囲での視野狭窄者数
106人	15人	1人

2. 旧視野測定器（測定時間2～3分）より新視野測定器（測定時間7～8分）が5分程度測定に時間を要するが、適齢診断実施時間内にて受診者全員の測定が終了した。

上記試行導入により新視野測定器が適性診断の項目として有用であることが検証された。

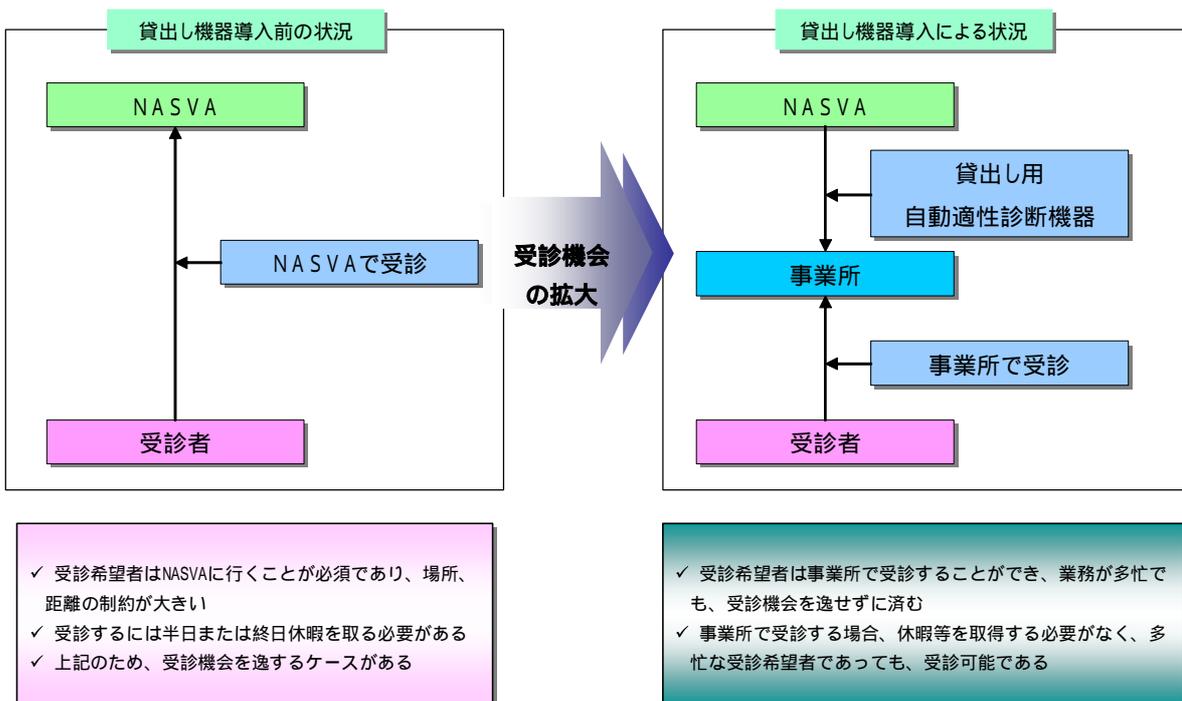
16年度・・・導入した改良型機器は、下記のとおり。



項目	導入機器仕様
形態	274(幅)×332(奥行)×307(高さ)mm
重量	4.6kg
仕様	スクリーニングポイント 77
付属	インターフェイス(簡易プリンタ内蔵)
最大視標輝度	10,000 A S B
ドーム範囲	300mm
測定時間	約3分(両眼で機器セット時間込み)
自動視野測定器とは、緑内障等による視野狭さを、全方位にわたり検査する視覚機能測定機器	

(2) 貸出し用自動診断機器

15年度・・・東京主管支所管内の乗合バス事業者に機器を貸出し、モニター受診してもらい、受診者に対するアンケート調査を行い、効果を検証。利便性が確認された。



受診者に対するアンケート調査結果（78人から回収）

利便性について

項目	構成比	項目	構成比
今回のように会社で受診する方がよい	75%	無回答	17%
支所で診断員の説明を聞きながら受診する方がよい	8%	計	100%

機器の操作について

項目	構成比	項目	構成比
説明がわかりやすい	83%	受診中に不安になることがある	1%
文章の文字が小さい	3%	その他	12%
ボタンが小さい	1%	計	100%

診断結果について

項目	構成比	項目	構成比
安全運転に役立ちそう	49%	信頼できない	1%
当を得ている	38%	その他	11%
説明が分かりづらい	1%	計	100%

16年度・・・導入機器は、下表のとおり、事業者や支所職員の意見・要望を取り入れ、前年度に比べ機器を小型軽量化し診断時間を短縮する等の改良をした。

平成16年度導入モデル

平成15年度導入モデル



項目	平成16年度導入モデル	平成15年度導入モデル	備考
外形寸法	幅 :450mm 奥行 :415mm 高さ :485mm	幅 :600mm 奥行 :415mm 高さ :560mm	小型化(幅を150mm、高さを75mmカット)
重量	19kg	27kg	軽量化(8kg減少)
診断方法	前の受診者がタッチパネルを終了後、NATSに移動すれば、次の受診者の診断が可能	前の受診者が全ての診断を終了後、次の受診者の診断が可能。	診断時間及び待ち時間の短縮 1名:90分 80分 (10分の時間短縮) 2名連続:180分 120分 (60分の時間短縮)
	質問に回答後、すぐに次の質問に移る	質問の読み上げが終了してから、次の質問に移る	3名連続:270分 160分 (110分の時間短縮)

(3) アイカメラ・シミュレーター

15年度・・・試作機の開発、データ収集の実験



(開発した試作機の特徴)

- ・実写映像を用い、現実に近い交通場で診断することができる。
- ・非接触型のアイカメラを搭載し、受診者にストレスを与えずに目の動きを観察、記録することが可能。
- ・事業用車両(バス、ハイタク、トラック)の違いを考慮して、それぞれの業態に応じた運転映像を提示させることが可能。
- ・受診者の運転行動と目の動きを同時に記録可能。
- ・記録された運転行動と目の動きを再現させることが可能。



(実施したデータ収集実験の概要)

- ・トラック、ハイタクの運送事業従事運転者について、優良運転者と事故惹起運転者の目の動き(注視点)を記録した。映像は、業態に応じて設定し、提示した。

・収集データ数(被験者数)

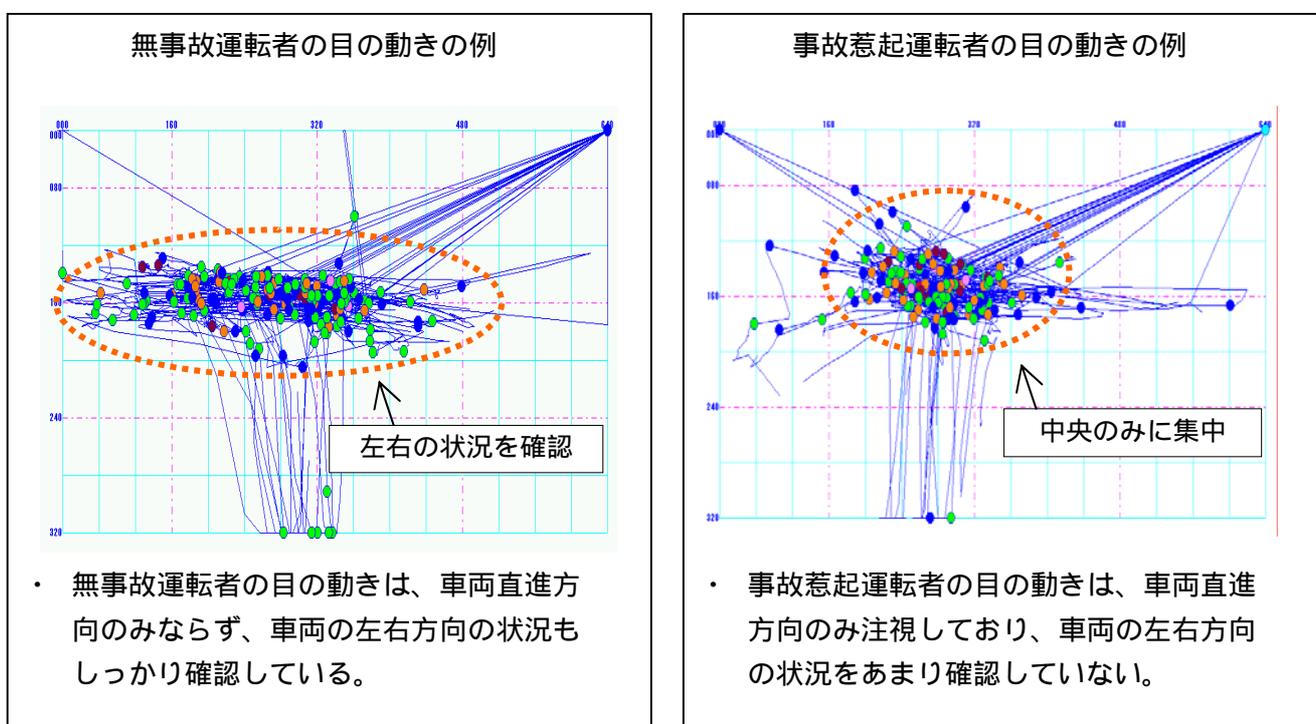
	優良運転者	事故惹起運転者
トラック	80名	80名
ハイタク	80名	80名

16年度… アイカメラ・シミュレーターによる収集データの解析結果
データの収集状況

	無事故運転者	事故惹起運転者	収集状況
トラック	80人	80人	平成15年度に収集済
ハイタク	80人	80人	
バス	80人	80人	平成16年度に収集済

無事故運転者と事故惹起運転者のデータ分析結果

トラック運送事業従事運転者について無事故運転者と事故惹起運転者の目の動き（注視点）のデータを分析した結果、次の内容が判明した。



右上の角に集まる線は「まばたき」があったことを示し、また、 の色は目が停まった時間の違いを示す

17年度… 「アイカメラ・シミュレーター検討委員会」における要望・指摘事項

- ・アイカメラ・シミュレーター診断は、運転者教育指導に有用であると考えられるのでぜひ導入して欲しい、
- ・運用にあたっては安価で多くの運転者に実施して欲しい
- ・事業者への貸出しを可能にしてほしい
- ・運行管理者が測定結果を活用し易いように運転者の目の動きの記録を映像情報として提供できるように改良すること
- ・測定の準備に時間がかかる点を改良すること など

アイカメラ・シミュレーター診断票（案）

診 断 票		管理番号 0001	
氏 名		性 別	男性
事業所名		検 査 日	2006 年 02 月 28 日
		年 令	34
		生年月日	1971 年 03 月 01 日

ハザード別診断結果

見えない危険に対する見方: D

軽微な危険から致命的な危険にまでなる事故は数多く発生し、見逃しの多い交通事故は、一瞬の不注意で命を奪ってしまうドライバーもいます。あなたはどのような「見えない危険」への見方ができているのでしょうか。車の前方や後方の死角や死角、死角の入り切りなど、見えないところからの危険は、事故の多くを占めています。

他の交通参加者に対する見方: A

走行中他の交通参加者のみならず、急を要している、こちらの車に気づかず、急に飛び出してくる車両があります。あなたは、そのような「他の交通参加者」への見方ができているのでしょうか。

バックミラーの見方: A

後方視界を確保し、後方からの危険に気づくことは、安全運転に欠かせません。あなたは、バックミラーを上手に活用できているのでしょうか。後方視界を確保し、後方からの危険に気づくことは、安全運転に欠かせません。あなたは、バックミラーを上手に活用できているのでしょうか。

総合: A

危険に対する見方は、安全運転の重要な要素の一つとして設定されています。

- ・ 「見えない危険に対する見方」、「他の交通参加者に対する見方」、「バックミラーの見方」等のハザード別に診断結果を提供する案を作成した。

アイカメラ・シミュレーターの東京モーターショーへの出展

周知活動及び情報収集等の一環として、同機器を東京モーターショーに出展し、受診体験者から試行導入に向けての操作方法等の改善に関する情報を収集した結果、多くの人が、「注意の向け方と安全運転には関係がある」、「優良ドライバーの目の動きを知りたい」と考えていることが分かった。

アイカメラ・シミュレーター検討委員会



- ・ アイカメラ・シミュレーターの運用方法、診断データの提供方法等の検討、活用効果等の検証を行った。

東京モーターショー出展



- ・ アイカメラ・シミュレーターの改善に関する情報の収集を行った。

18年度

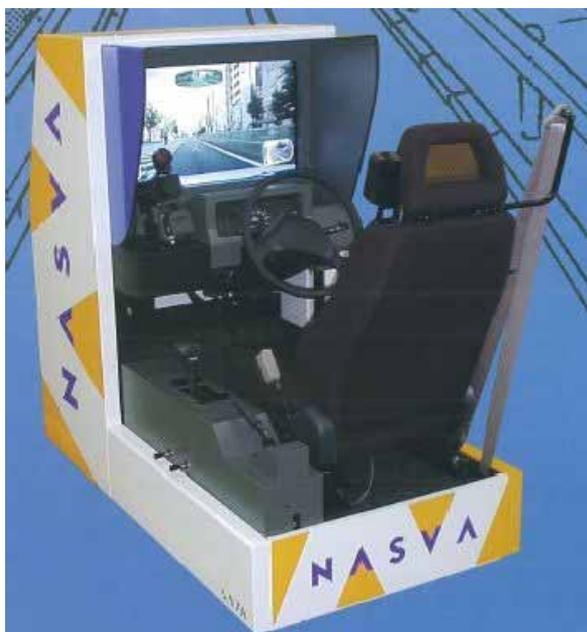
利用者の評価等

- ・日頃の運転では、どこを見ながら運転しているかなどあまり意識していないが、アイカメラ診断によって、自分の視線の動きを確認でき、参考となった。
- ・対向車など、前方から来るものへの視線は動いている、ミラーに対しては視線がほとんどいかず、後方に対する注意が不足していることがわかった。
- ・結構、左右にも目を配っていることが確認できて安心した。
- ・優良運転者と比較でき、安全教育に役立つと思う。
- ・速度感覚やアクセル・ブレーキの感覚が実際の運転とは違い、シミュレーターの機器に慣れるまでもう少し時間があつたほうが良いように思う。

アイカメラ・シミュレーターの交通安全フェアへの出展

周知活動及び情報収集等の一環として、同機器を交通安全フェアや交通安全アクション2006に出展し、広くPRするとともに、受診体験者から受診後の感想や評価に関する情報を収集した。結果をフィードバックすることにより「ほとんど前しか見ていない自分の特性がよくわかった。」「安全教育に役立つ有効な機器である。」という声などを聞くことができた。

アイカメラ・シミュレーター



東京主管支所での試行実施



優良者と事故惹起者の目の動き



2) 次期中期目標期間における見通し

受講者・事業者のニーズを踏まえ、指導講習の教材の充実を行うなど効果的な講習を実施及び診断機器の改良・導入等により、事業者の安全対策の充実・改善を図る。

その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

1. アイカメラ・シミュレーターについてのテレビ取材

- ・TBS「イブニングファイブ」特集コーナー（18年2月13日放送）

女性ドライバーの運転についての特集において、アイカメラ・シミュレーターの受診体験から、運転に自信のない女性ペーパードライバーは運転時に発見の遅れがあり、プロドライバー（女性タクシー運転手）は危険を予測した見方をすることを紹介した。

- ・テレビ朝日「スーパーJチャンネル」ニュース特集・Jのこだわり（18年2月14日放送）

事故防止啓発活動に期待されるアイカメラ・シミュレーターの活用効果について、無事故（優良）運転者と、事故惹起運転者の違いについて、視点の動きの違いの傾向を説明し、同機器の活用方法等について、PRした。

- ・TBSの生活情報番組「2時チャオ！」の特集コーナー（18年11月30日放送）

ペーパードライバーの運転者と運転のインストラクターの方とで、注意の仕方や目の配り方がどれくらい違うのかを、アイカメラ・シミュレーターの受診体験から、認識を深めてもらい目線や注意の違いを理解することにより事故防止につながることを紹介した。

2. 中部国際空港の道路標識の改善にアイカメラ・シミュレーターを試行的に活用して協力（17年度）

・中部国際空港を車で訪れるドライバーが道を間違え目的の駐車場等へたどり着くことができない状況が発生していることから、中部国際空港(株)からの要請に基づき、当機構のアイカメラ・シミュレーターを活用し、一般ドライバーの視点を調査することにより、空港内の道路標識の改善に協力した。

アイカメラ・シミュレーターを使用した調査



(中期目標)

診断結果を運転・運行管理に効果的に活用するため、助言内容の充実やカウンセリングの実施や指導講習との有機的な連携により、診断結果をより一層わかりやすく適切に提供すること。

(中期計画)

業態別等の診断結果の助言内容の充実、最新の事故事例研究・分析に基づくカウンセリング技法や小集団技法等の向上による助言指導の充実を図るとともに、運行管理者を対象とした適性診断活用講座を中期目標期間中に全支所において実施する。

中期目標期間における取組み及び次期中期目標期間における見通し

1) 中期目標期間における取組み

適性診断結果と運転行動の関係をイメージしやすく、受診者にとってはわかりやすく、運行管理者にとっては助言・指導しやすくするため、診断結果コメントを業態別に記述した。

また、運行管理の現場における適性診断結果を活用した運転者教育等について、適性診断活用講座を全支所において実施した。

さらに、カウンセリングを担当する職員に対して、最新の事故事例研究・分析に基づく診断技法について研修を実施し、適性診断の質の向上を図った。

(1) 性格テスト・安全運転態度テストの助言内容を業態別に記述

	適性診断項目	現行コメントの種類	改良コメントの種類
15年度	1.感情の安定性(性格テスト)	4種類	業態別に計18種類
	2.協調性(性格テスト)	4種類	同 計10種類
	3.気持ちのおおらかさ(性格テスト)	4種類	同 計10種類
	4.他人に対する好意(性格テスト)	4種類	同 計10種類
	5.安全態度	7種類	同 計168種類
16年度	処置判断テスト・速度見越反応テスト	10種類	同 計40種類
17年度	危険感受性テスト	7種類	同 計28種類
18年度	重複作業反応テスト(動作の正確さ)	5種類	同 計20種類

(2) カウンセリングを担当する職員(特定診断員)教育・訓練

15年度・・・ 146人

16年度・・・ 117人

17年度・・・ 114人

18年度・・・ 119人

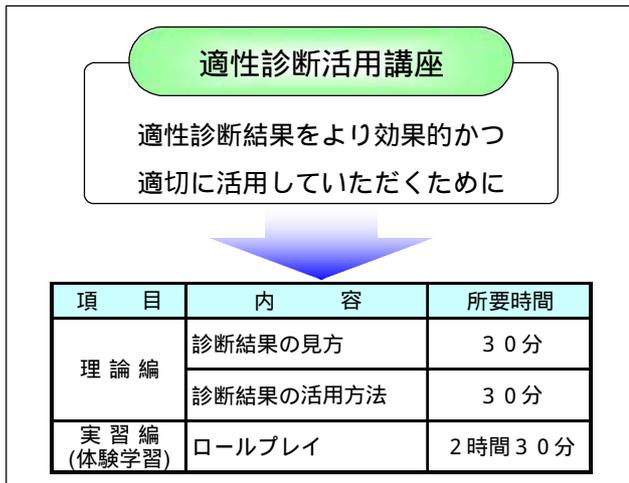
(3) 適性診断活用講座

15年度… 実施マニュアルを策定

16年度… 17年度から全支所での実施に向けた主管支所管内の担当者に対する研修を実施受講用のテキストを作成

17年度… 全支所で実施

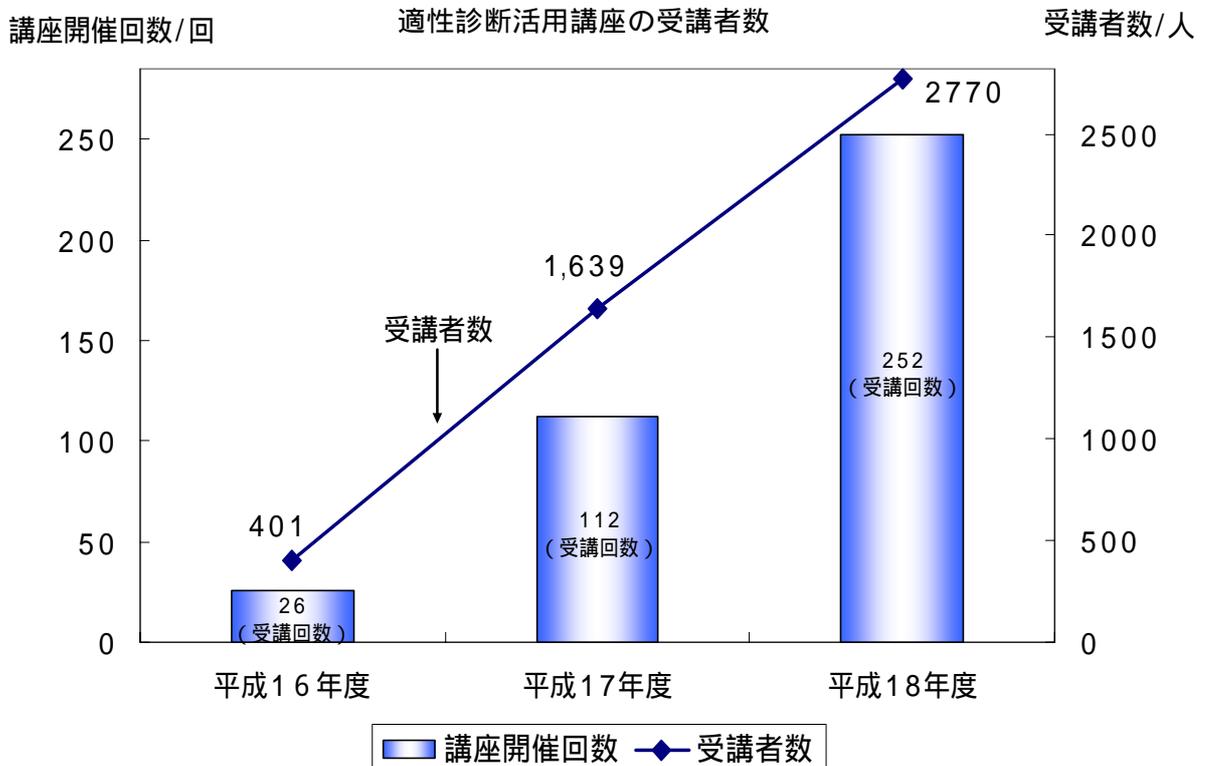
適性診断活用講座の流れ



テキスト



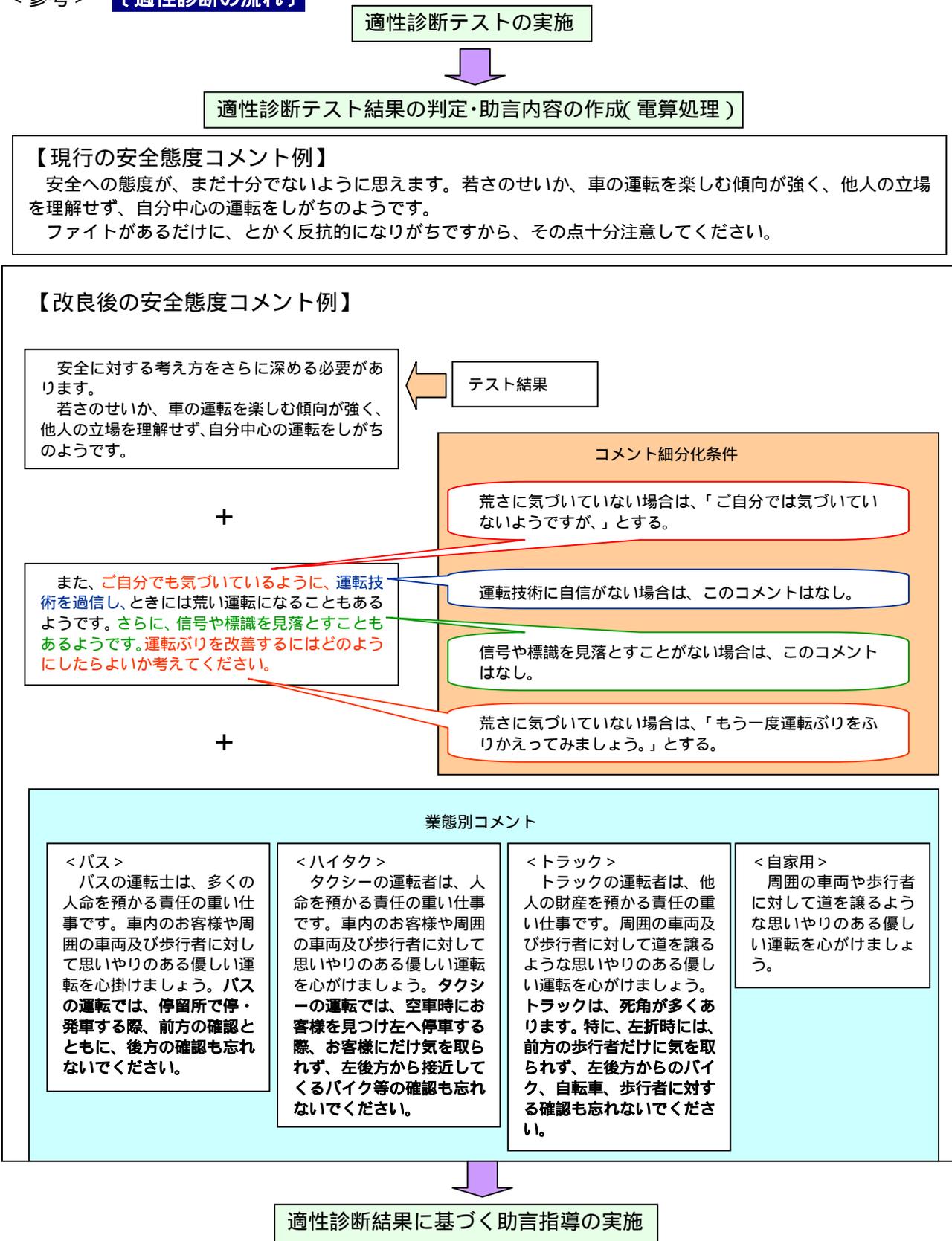
18年度… 開催回数を増回し、より多くの運行管理者等の方に受講してもらえるようトップセールス等によりPRに努めた。



2) 次期中期目標期間における見通し

受講者・事業者のニーズを踏まえ、指導講習の教材の充実を行うなど効果的な講習を実施及び診断機器の改良・導入等により、事業者の安全対策の充実・改善を図る。

<参考> **〔適性診断の流れ〕**



実施マニュアルの概要

・ 適性診断活用講座の目的
・ 適性診断結果の見方
・ 運転行動と適性診断
・ 適性診断結果に基づく助言指導
助言指導の過程・助言指導の心構え・質問の仕方
・ 目標設定

助言・指導の過程

助言・指導の過程

今回の講座 → 次回以降の講座

振り返り

「自分の運転は安全なのか？」

自己洞察

「あっ、そうか」「なるほど」

態度変容

「これではダメだ、変えなきゃ」「一時停止するようにしなきゃ」

行動変容

“一時停止の実施”

(ポイント) 助言指導の目的、行動変容までの過程

【助言指導の過程】

助言・指導の目的は、適性診断の目的である“安全意識の向上”の効果をもつものである。そして、助言指導により自分自身の運転ぶりを振り返ってもらい、行動変容に結びつける。今回の講座は運転者に自分自身の運転ぶりを振り返ってもらうためのもの。

「自分のことをわかってくれた」と感じるにより

相手は自分の言っていることにも耳を傾けるようになり、自分の気持ちや考えをできるだけ正確に表そうとする

自分自身を見つめ、振り返りようになる（「自分の運転は安全なのか？」）

自己洞察（「あっ、そうか」「なるほど」）
解決の方法を自ら見つけ出す

態度変容（「これではダメだ、変えなきゃ」「一時停止するようにしなきゃ」）

行動変容（“一時停止を実施するようになる”）

適性診断活用講座の流れ
(理論編)

適性診断活用講座

適性診断結果をより効果的かつ適切に活用していただくために

項目	内容	所要時間
理論編	診断結果の見方	30分
	診断結果の活用方法	30分
実習編 (体験学習)	ロールプレイ	2時間30分

受講料：1人当たり2,500円

受講風景(実習編)



その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

アンケートによる受講者の評価（18年度）

- ・適性診断受診結果の正しい使い方がよく理解できた。
- ・個々の運転者に気づきを与え、考えさせることが大切で、その手法を学ぶことができた。
- ・個別に助言・指導ができればよいが、その時間がなかなか取れない。
- ・助言・指導の際、まず、運転者の話を傾聴することが大切であることを知った。
- ・講座に参加して他社の運行管理者の良い指導方法を学ぶことができた。

（中期目標）

職員の資質の向上を図るため、研修制度の充実、カウンセリング技術の取得等を行うこと。

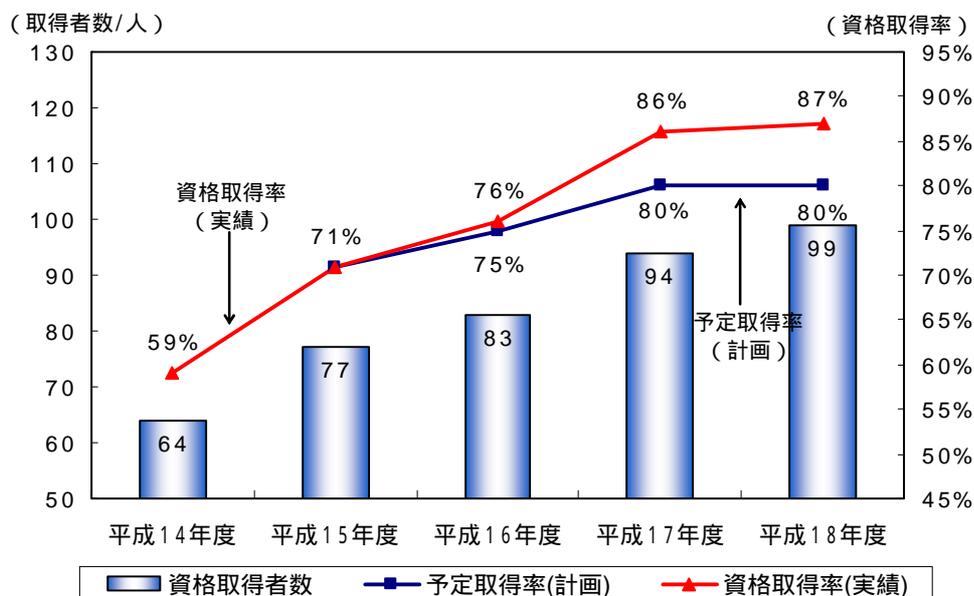
（中期計画）

職員の資質を向上させ、助言指導を充実するため、計画的に職員への研修を実施し、中期目標期間中に診断業務担当職員の80%以上に産業カウンセラー資格を取得させる。

中期目標期間における実績値及び取組み

産業カウンセラー資格取得計画により、適性診断担当職員に占める有資格職員の割合が87%に達した。

産業カウンセラー資格取得者の実績等



(中期目標)

受診者・事業者のニーズや活用状況を適切に把握し、その結果を適性診断の内容、診断結果の提供等に反映すること。

(中期計画)

事業者の運行管理における診断結果の活用を促進するため、支所からオンライン化により得られた全国的な診断結果データを地域別、事業者別、業態別、年齢別に解析し、個人情報の保護を図りつつ、事故防止に資する情報として事業者及び関係者に提供する。

中期目標期間における取組み及び次期中期目標期間における見通し

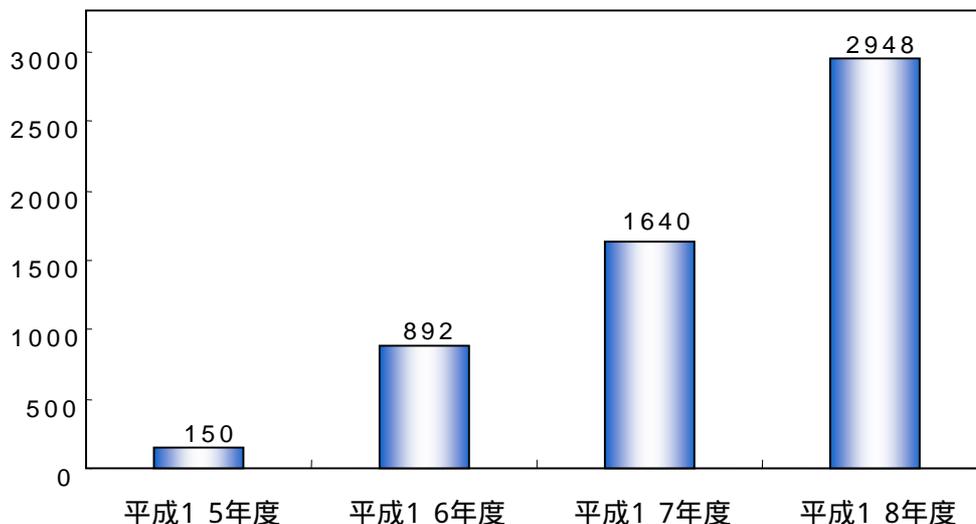
1) 中期目標期間における取組み

事業者の運行管理における診断結果の活用を促進するための解析システムを構築し、事故防止に関する情報として事業者等に提供した。

情報提供件数は15年度の150件から最終年度(18年度)には2,948件に大幅に増加した。

事業者及び関係者に対する情報提供件数

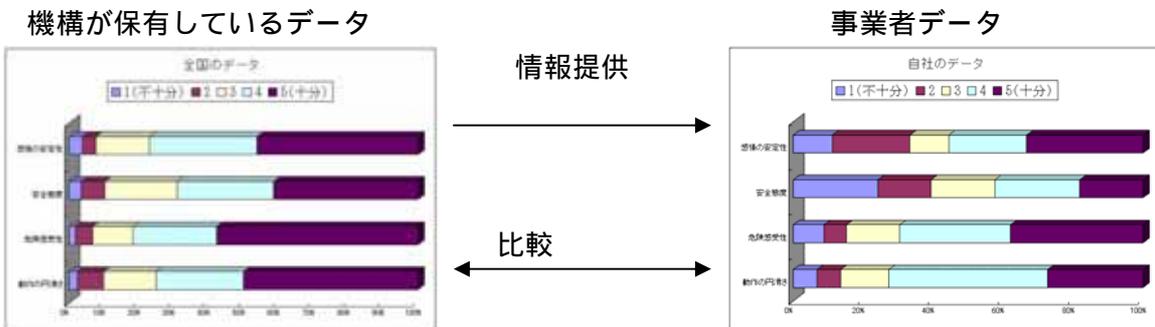
(情報提供件数 / 件)



2) 次期中期目標期間における見通し

受講者・事業者のニーズを踏まえ、指導講習の教材の充実を行うなど効果的な講習を実施及び診断機器の改良・導入等により、事業者の安全対策の充実・改善を図る。

診断結果を解析し、地域別・事業者別・業態別・年齢別に本部及び全支所で出力可能なシステムを構築（15年度）



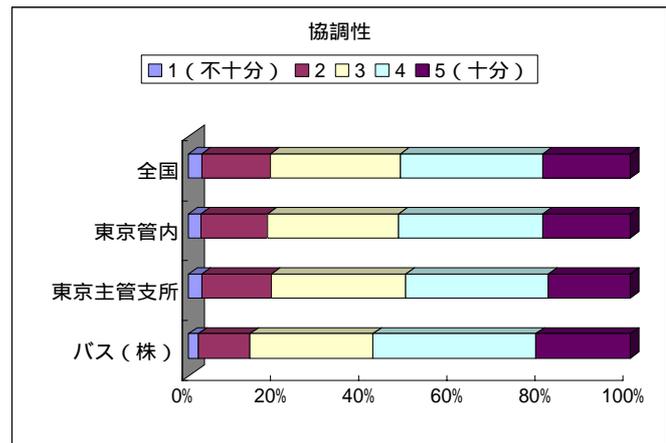
地域別・事業者別・業態別・
年齢別にそれぞれ抽出可能
(ただし、個人データは非開示)

提供された受診者データと自社の
受診者データを比較し、運行
管理者等が運転者教育に活用

【情報提供の例】

全国と自社とのデータ
(診断項目別)

地域別・事業者別・業態別・
年齢別にそれぞれ抽出可能
(ただし、個人データは非開示)



（中期目標）

受診者・事業者のニーズや活用状況を適切に把握し、その結果を適性診断の内容、診断結果の提供等に反映すること。

（中期計画）

定期的な受診者・事業者に対する調査を実施し、ニーズ等を踏まえ、適性診断の内容の充実に反映する。

中期目標期間における取組み及び次期中期目標期間における見通し

1) 中期目標期間における取組み

受診者・事業者に対するニーズ調査の結果を踏まえつつ、適性診断の内容の充実、受診環境の改善を図った。

16年度・・・主な改善内容

診断内容の改善：診断結果のコメントを業態別に改良することにより、運行管理者が運転者指導を行いやすく改善した。

診断機器の改善：本所診断機器のディスプレイ画面を反射の少ない液晶画面に改善した。

新：66台、旧：307台、計373台

会場・施設の改善：嫌煙者に配慮し待合室に喫煙装置を設置し、受診環境を改善した。

分煙機設置23箇所、分煙機のない支所に空気清浄機27機

診断室にディスプレイ表示装置を設置することにより、当日の受診スケジュールの周知を図り、受診者の診断時間の短縮、時間待ちのイライラの解消等受診環境を改善した。

17年度・・・主な改善内容

診断内容の改善：15・16年度に診断結果のコメントを業態別に改良し、17年4月より診断結果票に反映させるとともに注意点を下線で示すことにより、運行管理者が運転者指導を行いやすく改善した。

診断機器の改善：改良型診断機器の導入を引き続き推進

新：189台(+123台)、旧：213台(-94台)、計402台

土日の開業：18年4月から土曜開業支所を前年度に比べ4支所増の45支所とした

受付の改善：受付の効率化を図るためにディスプレイ表示装置を活用し、診断種別ごとに受付を案内する等、受診者の受付時の待ち時間の短縮、時間待ちのイライラの解消等受診環境を改善した。

18年度・・・主な改善内容

診断内容の改善：コメント改良が残されていた重複作業反応テストの助言内容について、適性診断結果から予想される運転行動の例を記載し、より具体的に業態別に記述することにより、運転者にとってはわかりやすく、管理者にとっては助言・指導しやすくなるよう改善を図った。

診断機器の改善：改良型診断機器を、引き続き導入した。

新：280台(+91台)、旧：142台(-71台)、計422台

土日の開業：受診者の受診機会を拡大するため、平成19年4月から49支所において第1及び第3土曜日を開業することとした。

土曜開業支所の推移

	平成17年4月	平成18年4月	平成19年4月
第1・3土曜日開業	35支所	38支所	49支所
第3土曜日開業	6支所	7支所	0支所
土曜日開業計	41支所	45支所	49支所
平日のみ開業	9支所	5支所	1支所
合計	50支所	50支所	50支所

2) 次期中期目標期間における見通し

受講者・事業者のニーズを踏まえ、指導講習の教材の充実を行うなど効果的な講習を実施及び診断機器の改良・導入等により、事業者の安全対策の充実・改善を図る。

<各年度の取組み等>

15年度・・・受診者、事業者に対して調査を実施

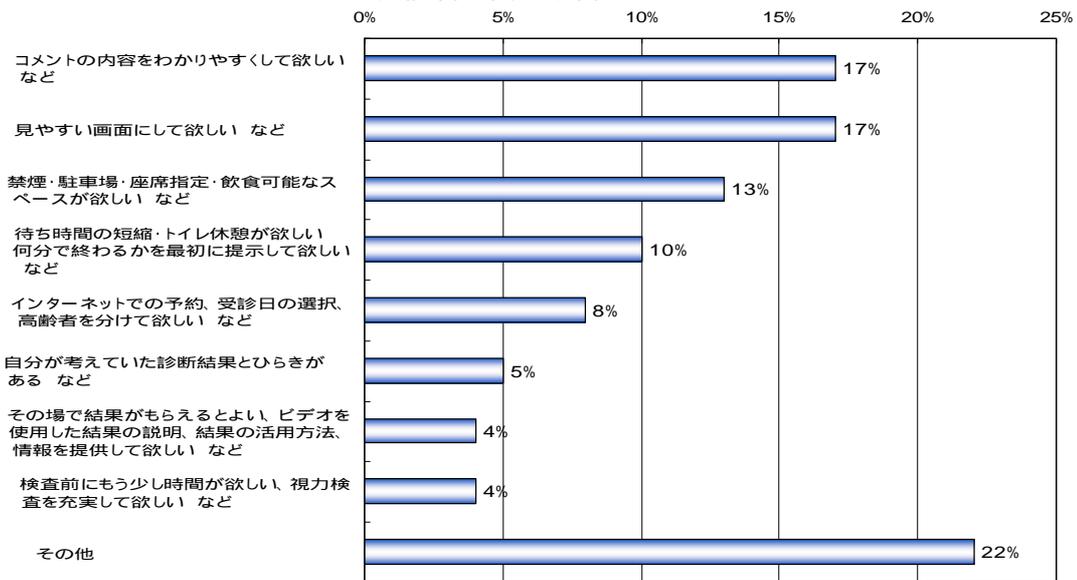
【受診者調査の概要】

調査期間：平成16年1月～3月

調査対象：全主管支所の平成16年1月～2月の受診者数

項目	一般診断	初任診断	適齢診断	特定診断	全体
受診者数	16,903	6,014	1,618	172	24,707
調査件数	1,105	373	117	63	1,658
回収件数	1,105	373	117	63	1,658
回収率	100%	100%	100%	100%	100%

受診者の要望項目



その他(出張診断をして欲しい、カウンセリング内容を充実してほしい など)

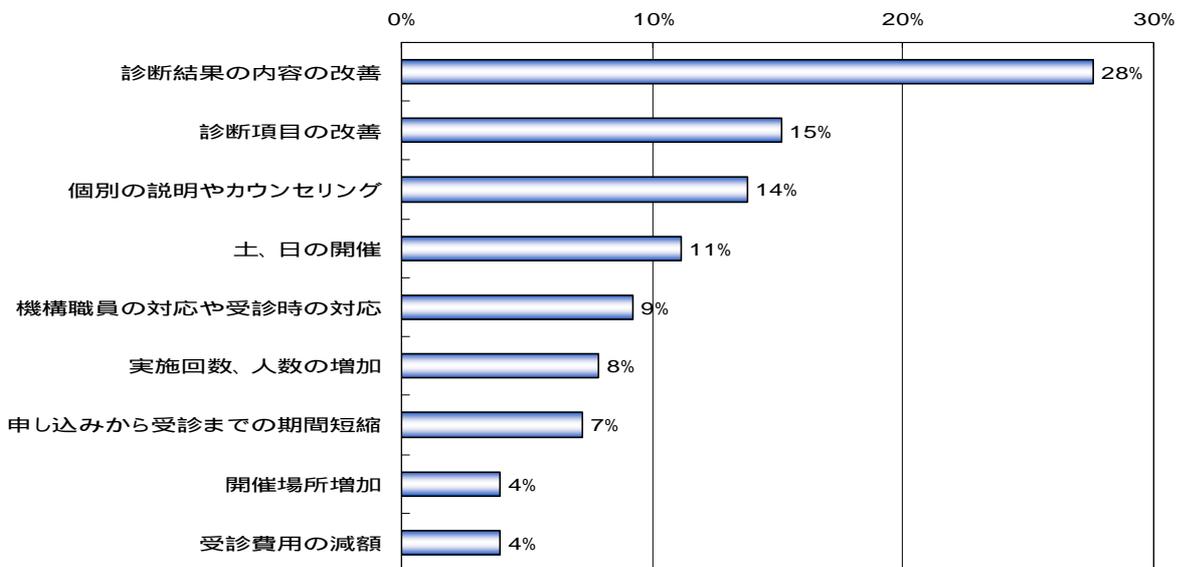
【事業者調査の概要】

調査期間：平成16年1月～3月

調査対象：全主管支所の対象事業者数

項目	バス	ハイタク	トラック	全体
事業者数	950	2,010	22,253	25,213
調査件数	110	378	1,513	2,001
回収件数	77	224	689	990
回収率	70.0%	59.3%	45.5%	49.5%

事業者による適性診断に関する要望項目



16年度

【受診者調査の概要】

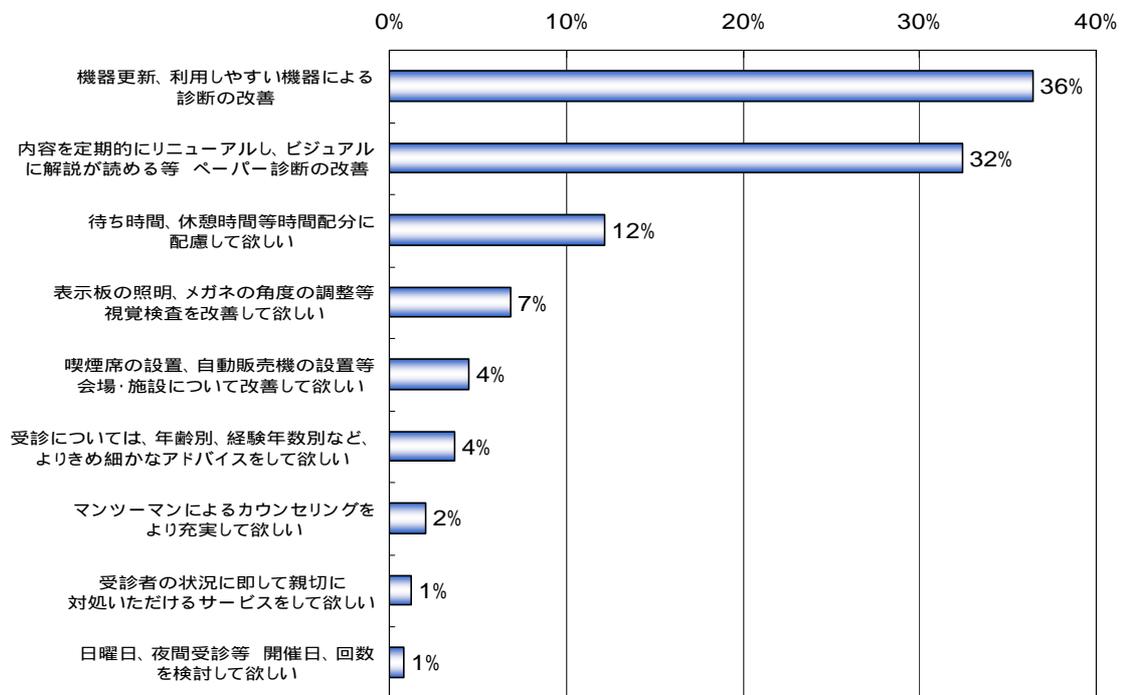
調査期間：平成17年1月～3月

調査対象：全主管支所の平成17年1月～2月の受診者

受診者に対する調査の回収率等

項目	一般診断	初任診断	適齢診断	特定診断	全体
受診者数	14,829	6,253	1,571	180	22,833
調査件数	722	341	106	144	1,313
回収件数	722	341	106	144	1,313
回収率	100%	100%	100%	100%	100%

受診者の要望項目



【事業者調査の概要】

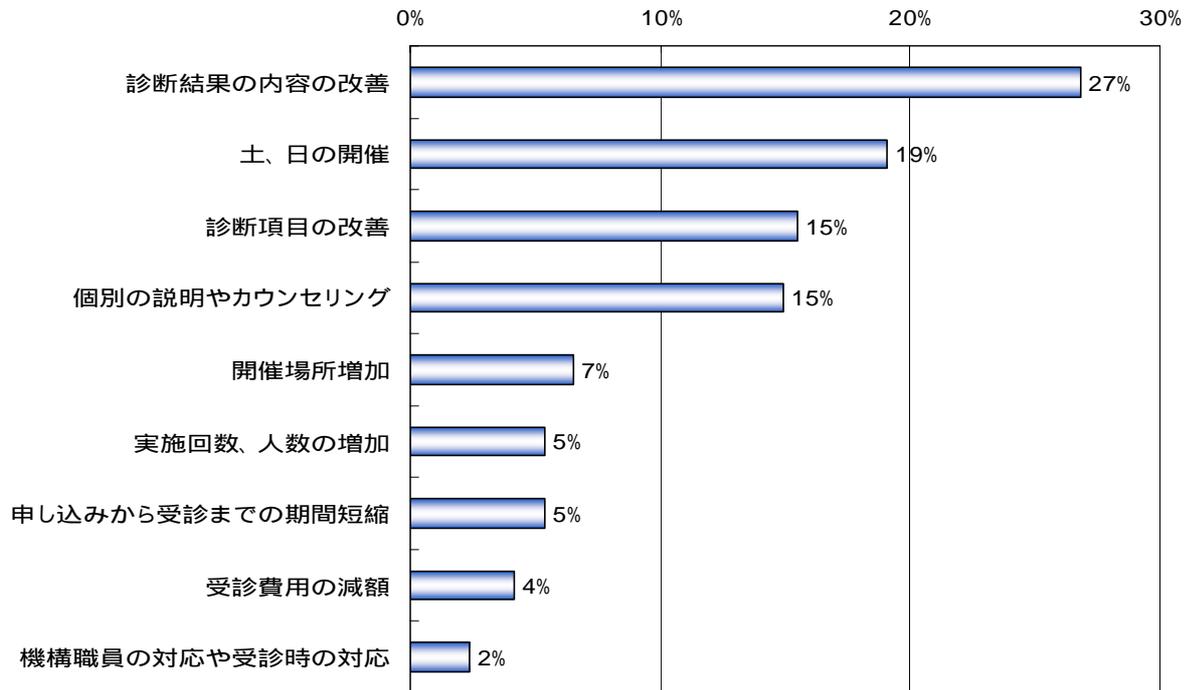
調査期間：平成17年1月～3月

調査対象：全主管支所の対象事業者

事業者に対する調査の回収率等

項目	バス	ハイタク	トラック	全体
事業者数	1,016	2,092	22,733	25,841
調査件数	110	376	1,514	2,000
回収件数	75	229	739	1,043
回収率	68.2%	60.9%	48.8%	52.2%

事業者による適性診断に関する要望項目



17年度

【受診者調査の概要】

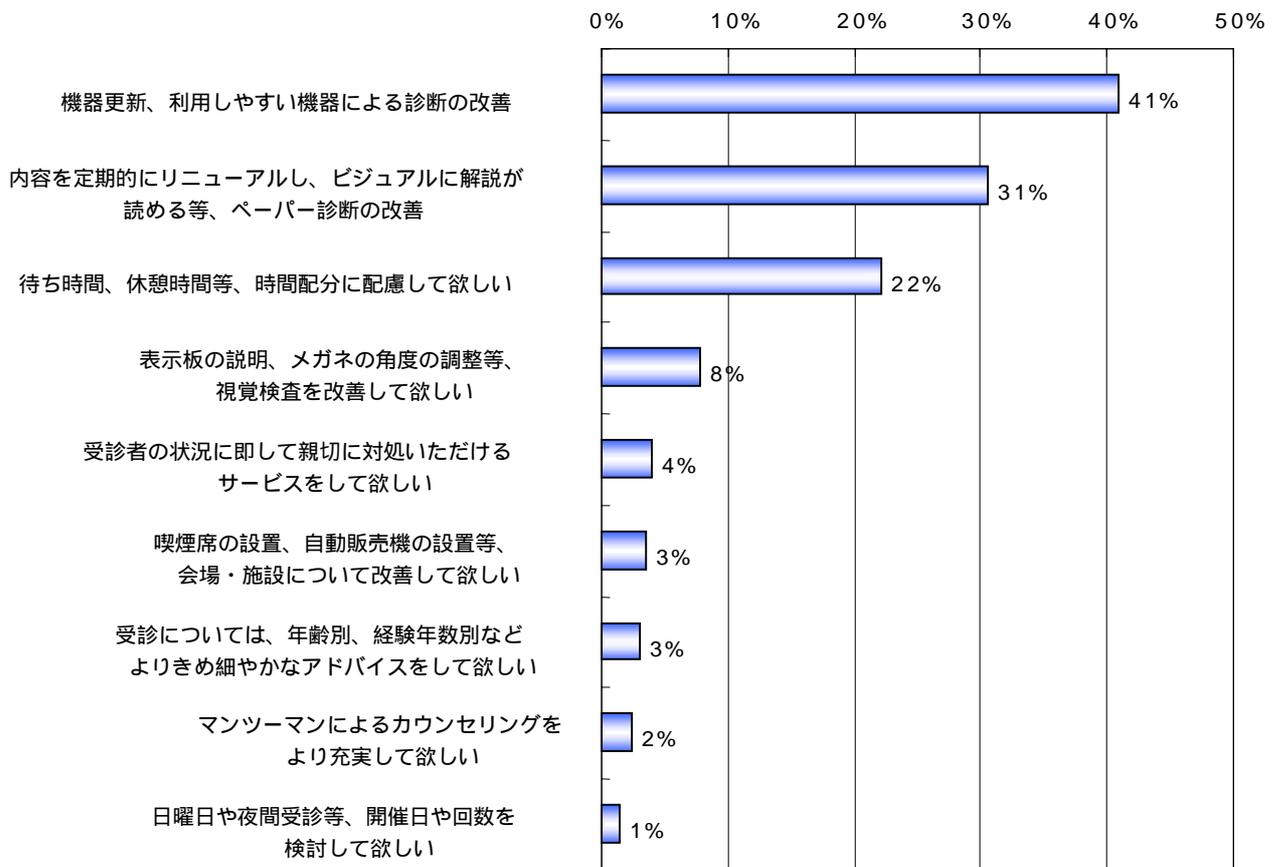
調査期間：平成18年1月～3月

調査対象：全主管支所の平成18年1月～2月の受診者

受診者に対する調査の回収率等

項目	一般診断	初任診断	適齢診断	特定診断	全体
受診者数	57,129	27,943	6,085	675	91,832
調査件数	813	434	84	54	1,385
回収件数	813	434	84	54	1,385
回収率	100%	100%	100%	100%	100%

受診者の要望項目



【事業者調査の概要】

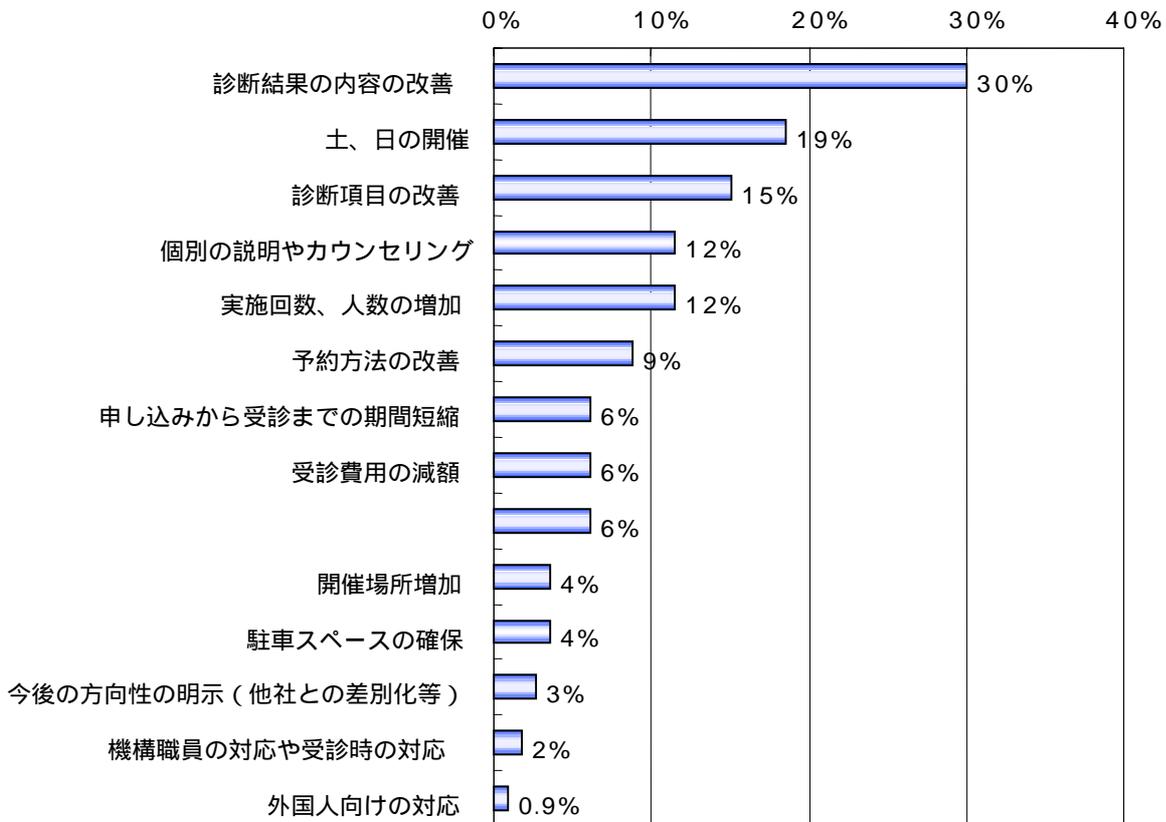
調査期間：平成18年1月～3月

調査対象：全主管支所の対象事業者

事業者に対する調査の回収率等

項目	バス	ハイタク	トラック	全体
事業者数	1,015	2,456	20,885	24,356
調査件数	109	377	1,514	2,000
回収件数	82	231	726	1,039
回収率	75.2%	61.3%	48.0%	52.0%

事業者による適性診断に関する要望項目



18年度

適性診断の見直し検討（主な検討内容）

18年12月に「適性診断業務検討委員会」を開催し、適性診断（従来の方法の一部変更）の互換性の判定基準、適性診断（新しい方法）の採用基準、適性診断の改良・改善等について意見を伺った。下記の検討項目を含め、今後の適性診断内容の変更や追加については、従来の診断との互換性や採用基準に合致しているか等の検証を実施した上で、見直しを図ることとした。

適性診断の改良・改善の主な検討項目

- ・ 診断メニューの追加検討案
 - 軽微な事故を起こしたドライバー等を対象に、診断結果に基づいたカウンセリングが受けられるようカウンセリング付きの一般診断（任意診断）を追加
- ・ 診断設問等の追加検討案
 - 睡眠時無呼吸症候群（SAS）に関する設問
 - 疲労蓄積度に関する設問
- ・ 受診慣れ防止対策等の検討案
 - 判断・動作のタイミングのタイミング時間を一定範囲以内に変更可能に改良
 - 危険感受性の場面を実写映像化

- ・ 受診結果提供方法の改善案
 - 運行管理者の指導効果の向上を図るため、受診者用とは別に運行管理者専用の適性診断票を作成
 - 適性診断結果プロフィール（換算値）のグラフを見やすく、また、特性を理解しやすくするため、棒グラフからレーダーチャート化へ変更

【受診者調査の概要】

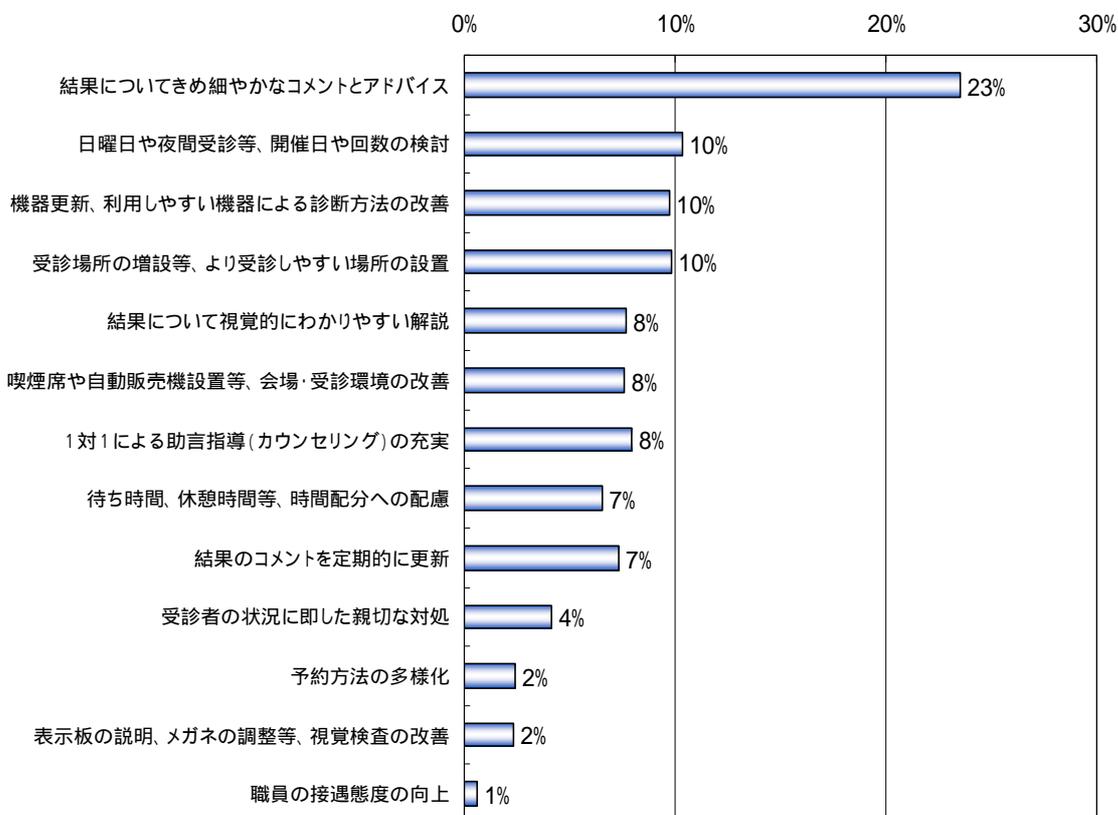
調査期間：平成19年1月～3月

調査対象：上記調査期間における受診者

受診者に対する調査の回収率等

項目	一般診断	初任診断	適齢診断	特定診断	全 体
受診者数	61,605	30,409	7,365	699	100,078
調査件数	13,292	7,500	1,175	230	22,197
回収件数	13,292	7,500	1,175	230	22,197
回収率	100%	100%	100%	100%	100%

受診者の要望項目



【事業者調査の概要】

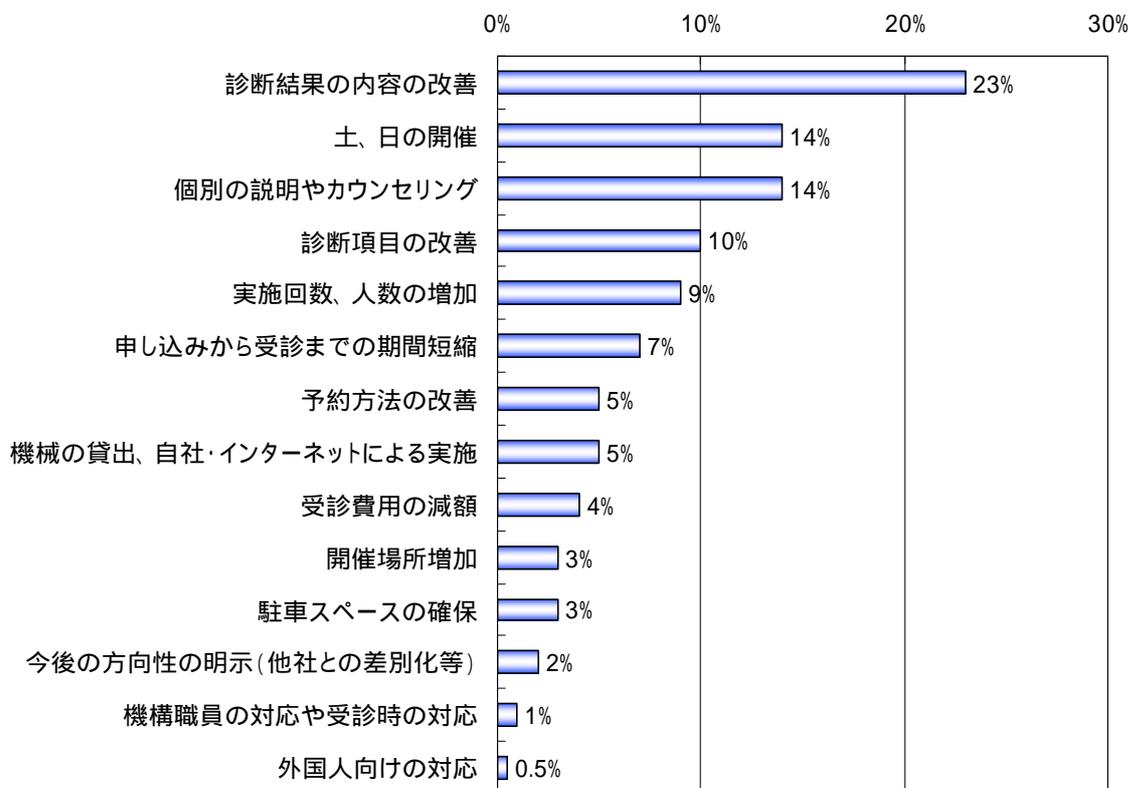
調査期間：平成19年1月～2月

調査対象：全支所の対象事業者

事業者に対する調査の回収率等

項目	バス	ハイタク	トラック	全体
事業者数	4,436	10,445	57,845	72,726
調査件数	316	584	3,166	4,066
回収件数	221	398	1,606	2,225
回収率	69.9%	68.2%	50.7%	54.7%

事業者による適性診断に関する要望項目



<参考> 16年度

(新) 反射の少ない液晶画面



諸元
奥行: 610mm
幅: 700mm
高さ: 1,380mm
(フード付き ブース化実現)

(旧) 診断機器



諸元
奥行: 1,177mm
幅: 800mm (隣接スペース含む。)
高さ: 1,350mm
(フード無し)

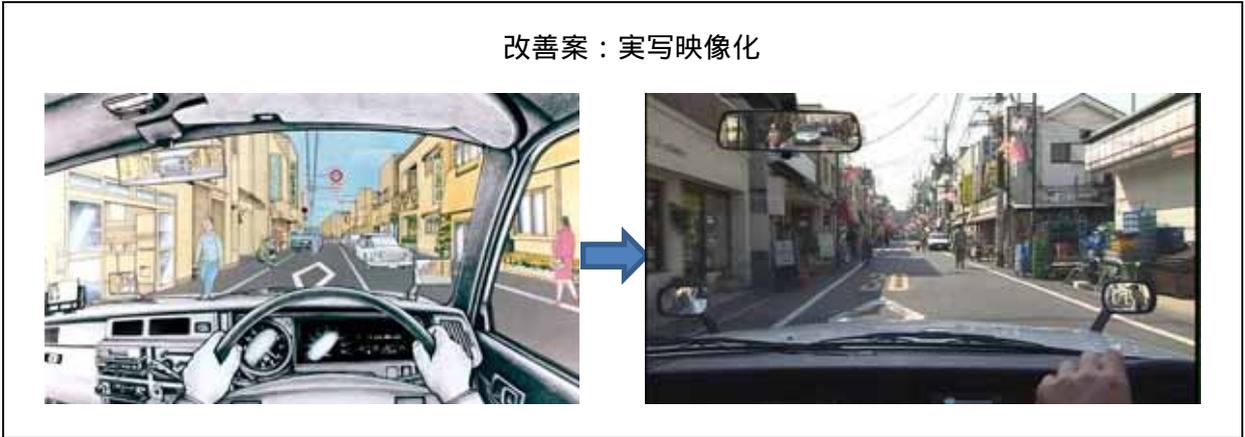
喫煙装置を設置した待合室



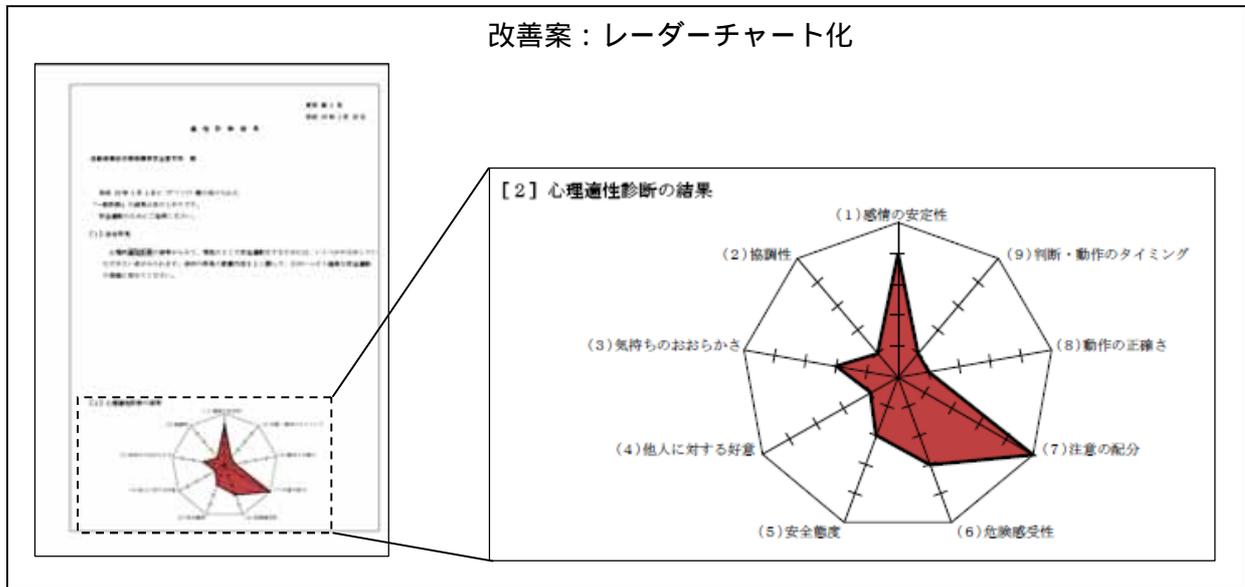
ディスプレイ表示装置 (東京主管支所に設置)



改善案：実写映像化



改善案：レーダーチャート化



(中期目標)

以上により、事業者の安全対策の充実・改善を促進し、事故防止効果を高めること。

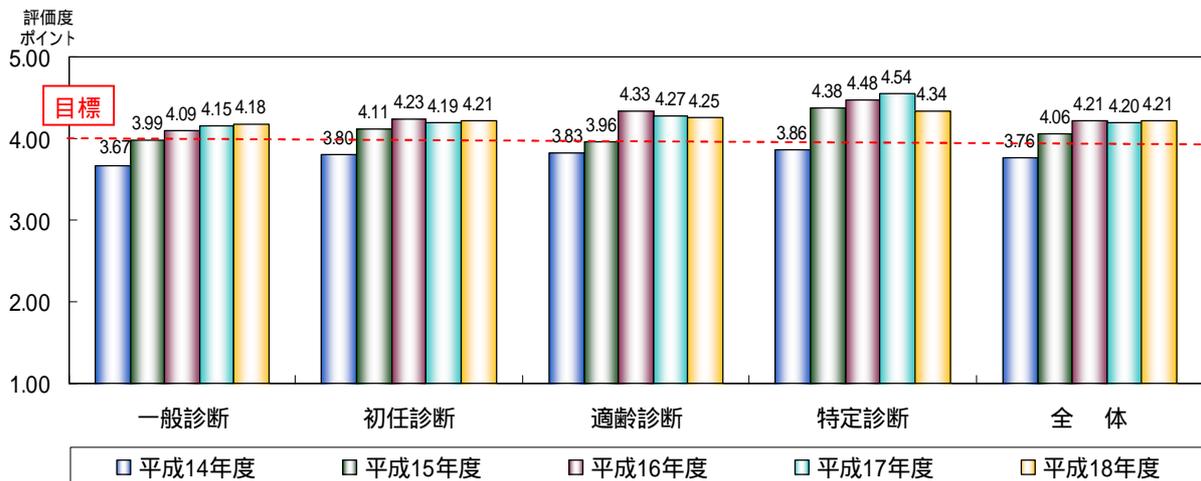
(中期計画)

以上の施策を実施することにより、受診者・事業者に対する5段階評価の調査における安全対策への支援効果に関する評価度について、中期目標期間の最後の事業年度までに4.0以上とする。

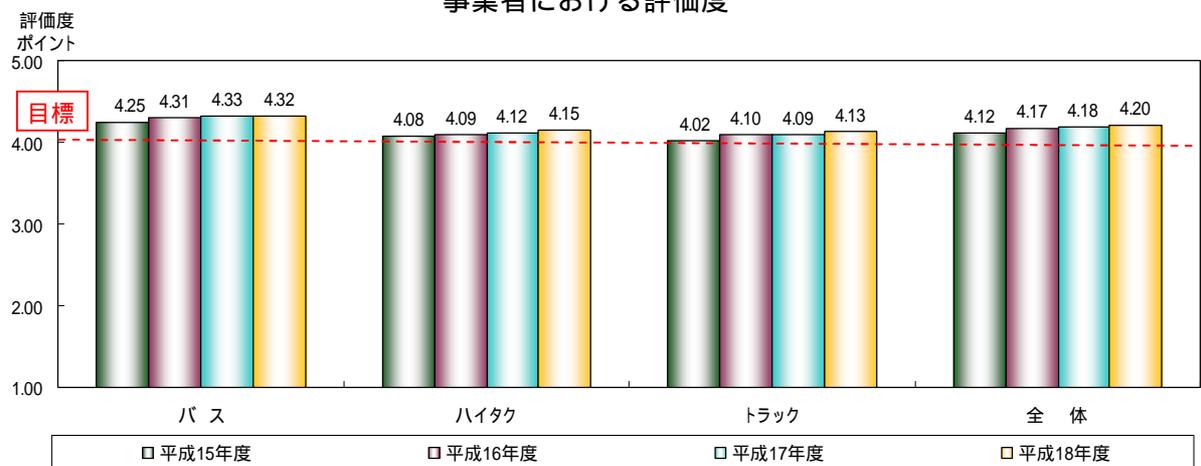
中期目標期間における実績値及び取組み

適性診断内容の高度化、受診者・事業者の利便性の向上を図ることにより、最終事業年度において、受診者から4.21、事業者から4.20の評価を得た。

受診者における評価度



事業者における評価度



<各年度の取組み> 15年度

【受診者調査の概要】

調査期間：平成16年1月～3月

調査対象：全主管支所の平成16年1月～2月の受診者数

項目	一般診断	初任診断	適齢診断	特定診断	全 体
受診者数	16,903	6,014	1,618	172	24,707
調査件数	1,105	373	117	63	1,658
回収件数	1,105	373	117	63	1,658
回収率	100%	100%	100%	100%	100%

【事業者調査の概要】

調査期間：平成16年1月～3月

調査対象：全主管支所の対象事業者数

項目	バ ス	ハイタク	トラック	全 体
事業者数	950	2,010	22,253	25,213
調査件数	110	378	1,513	2,001
回収件数	77	224	689	990
回収率	70.0%	59.3%	45.5%	49.5%

16年度

【受診者調査の概要】

調査期間：平成17年1月～3月

調査対象：全主管支所の平成17年1月～2月の受診者

項目	一般診断	初任診断	適齢診断	特定診断	全 体
受診者数	14,829	6,253	1,571	180	22,833
調査件数	722	341	106	144	1,313
回収件数	722	341	106	144	1,313
回収率	100%	100%	100%	100%	100%

【事業者調査の概要】

調査期間：平成17年1月～3月

調査対象：全主管支所の対象事業者数

項目	バ ス	ハイタク	トラック	全 体
事業者数	1,016	2,092	22,733	25,841
調査件数	110	376	1,514	2,000
回収件数	75	229	739	1,043
回収率	68.2%	60.9%	48.8%	52.2%

17年度

【受診者調査の概要】

調査期間：平成18年1月～3月

調査対象：全主管支所の平成18年1月～3月の受診者

項目	一般診断	初任診断	適齢診断	特定診断	全体
調査期間中の受診者数	57,129	27,943	6,085	675	91,937
アンケート調査配布件数	813	434	84	54	1,385
回収件数	813	434	84	54	1,385
回収率	100%	100%	100%	100%	100%

【事業者調査の概要】

調査期間：平成18年1月～3月

調査対象：全主管支所の対象事業者数

項目	バス	ハイタク	トラック	全体
事業者数	1,015	2,456	20,885	24,356
調査件数	109	377	1,514	2,000
回収件数	82	231	726	1,039
回収率	75.2%	61.3%	48.0%	52.0%

18年度

【受診者調査の概要】

調査期間：平成19年1月～3月

調査対象：上記調査期間における受診者

項目	一般診断	初任診断	適齢診断	特定診断	全体
調査期間中の受診者数	61,605	30,409	7,365	699	100,078
アンケート調査配布件数	13,292	7,500	1,175	230	22,197
回収件数	13,292	7,500	1,175	230	22,197
回収率	100%	100%	100%	100%	100%

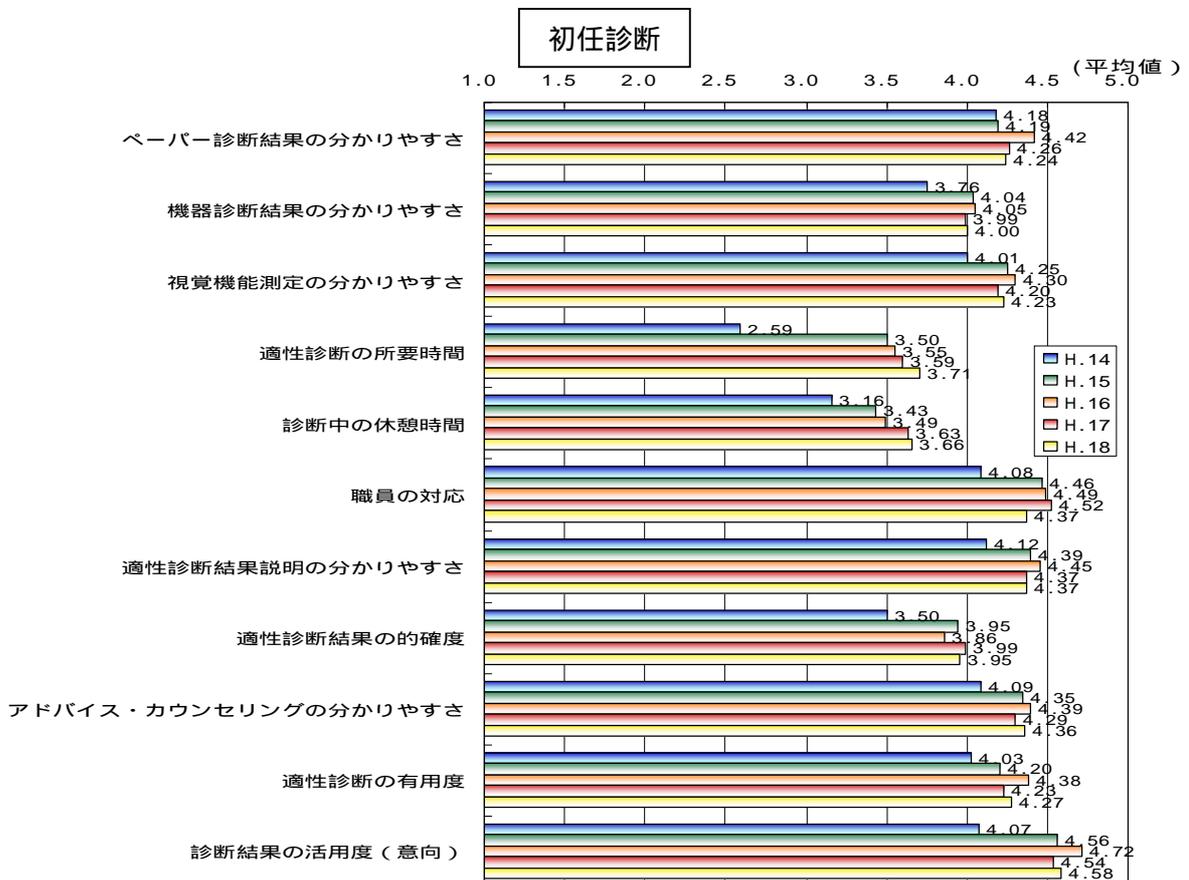
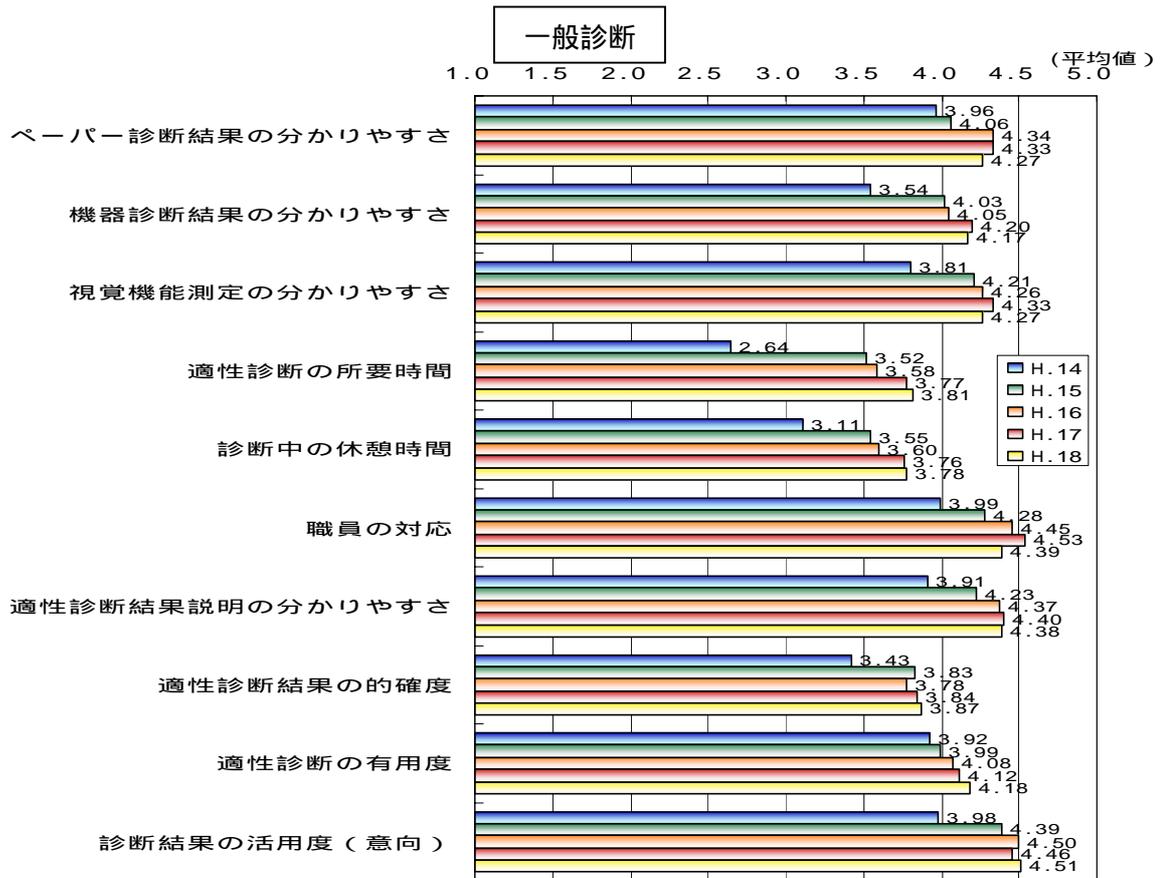
【事業者調査の概要】

調査期間：平成19年1月～2月

調査対象：全支所の対象事業者

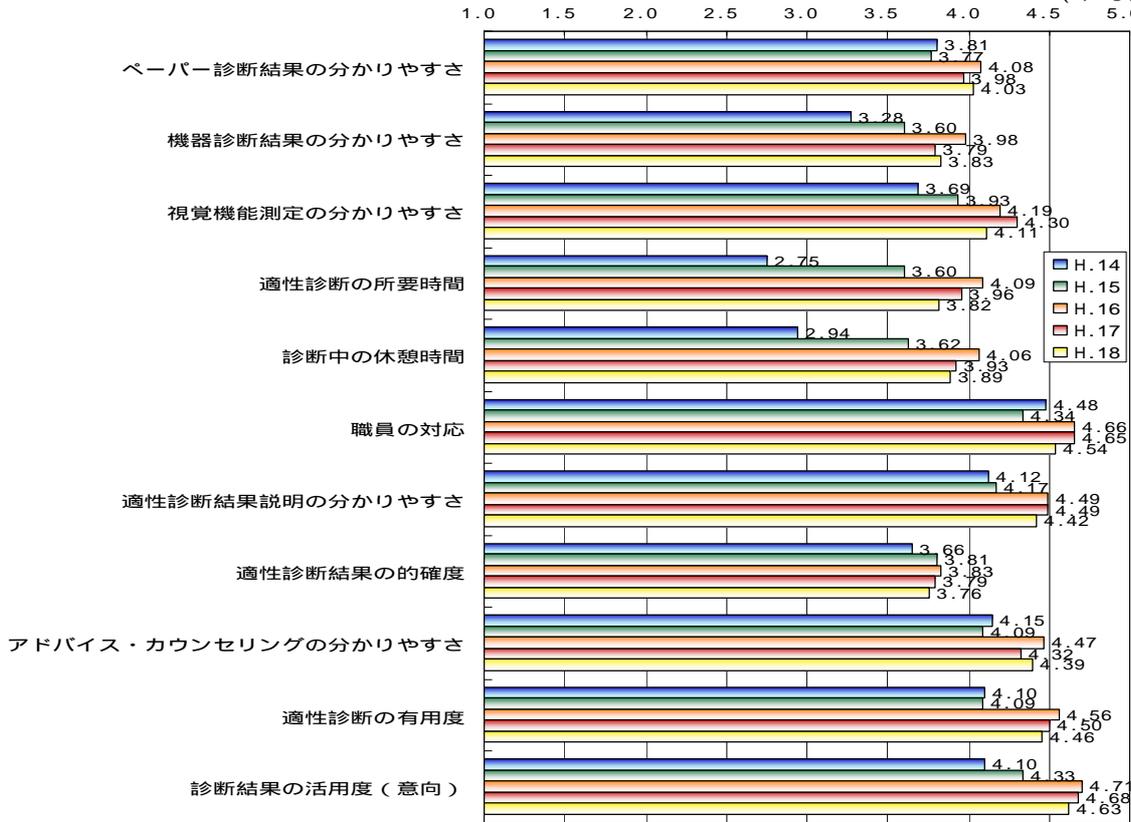
項目	バス	ハイタク	トラック	全体
事業者数	4,436	10,445	57,845	72,726
調査件数	316	584	3,166	4,066
回収件数	221	398	1,606	2,225
回収率	69.9%	68.2%	50.7%	54.7%

適性診断別安全対策への支援効果に関する項目別評価



適齢診断

(平均値)



特定診断

(平均値)

